

## 多様化する留学先

—中央アジア・コーカサス留学の様々な可能性と支援体制—

### Alternative Study Abroad Destinations:

On Various Opportunities of Studying in Central Asian and

Caucasian Countries

筑波大学人文社会系助教 松下 聖

MATSUSHITA Sei

(Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba)

キーワード：中央アジア・コーカサス、留学先の多様化、留学支援

#### 1. はじめに

日本人学生の海外留学が減少傾向にある一方で、留学先は多様化している。ただ、旧ソ連から独立した中央アジア・コーカサス諸国への留学は、地域自体の知名度も低く、まだまだマイナーと言わざるを得ない。しかし筆者は、中央アジア・コーカサスへの日本人学生派遣事業に従事し、実際の成果を見る中で、これらの地域への留学が学生自身にとって、また日本の社会、産業、政治外交にとって重要な意義を持つことを日々痛感している。そこで本稿では、中央アジア・コーカサス諸国への留学が、特殊な興味を持った学生の例外的な選択ではなく、極めて現実的な選択肢であることを、筑波大学における実際の派遣プログラムや支援体制を中心に伝えたい。

#### 2. 中央アジア・コーカサス諸国の概要

まず、中央アジア・コーカサス諸国の概要について簡単に紹介したい。「中央アジア」と「コーカサス」はそれぞれ別の地域を指しており、定義の仕方は様々あるが、狭義では「中央アジア」はウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの5カ国、「コーカサス」はアゼルバイジャン、アルメニア、ジョージアの3カ国を指す。そしてこの8カ国はいずれも旧ソヴィエト連邦から独立し、ある程度共通の歴史的背景を有していることから、両地域がセットで扱われるこ

とがある。例えば、日本の外務省欧州局内には「中央アジア・コーカサス室」が設置されている。

一方、中央アジアとコーカサス両地域間はもちろんのこと、中央アジア諸国内、コーカサス諸国内でも政治体制、社会、文化、言語、経済状況等の差異は大きい。

表 1. 中央アジア諸国の基本情報<sup>1</sup>

国名	ウズベキスタン	カザフスタン	キルギス	タジキスタン	トルクメニスタン
首都	タシケント	アスタナ	ビシュケク	ドゥシャンベ	アシガバード
人口（万人）	2,940	1,760	590	840	540
国家語・公用語	ウズベク語	カザフ語 ロシア語	キルギス語 ロシア語	タジク語	トルクメン語
一人あたり GDP（ドル）	2,129.5	9,795	1,197.7	1,113.2	7,534

表 2. コーカサス諸国の基本情報

国名	アゼルバイジャン	アルメニア	ジョージア
首都	バクー	エレバン	トビリシ
人口（万人）	950	300	430
国家語・公用語	アゼルバイジャン語	アルメニア語	ジョージア語
一人あたり GDP（ドル）	6,800	3,255	3,680

表 1、表 2 は、各国の基本情報を表している。人口規模はウズベキスタンが最も大きい。最も人口が少ないアルメニアでは近年、人口が減少しているが、中央アジア諸国はトルクメニスタンを筆頭に大幅な人口増加が見られる。経済状況で言うと、豊富な天然資源を有するカザフスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャンが抜きん出ている。

共通点も多い。国際的な枠組みでは、ジョージア以外の国は（関与の度合いは別として）CIS（独立国家共同体）へ加盟している。他、上海協力機構やユーラシア経済同盟へ複数の国が加盟している。言語では、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン、アゼルバイジャンの主要民族がテュルク系というトルコ語と同系統の言語を話すため、お互いの意思疎通が比較的容易にできる。中央アジア 5 カ国とアゼルバイジャンではイスラム教徒が多数を占めるという共通点もある。

<sup>1</sup> 外務省各国情報より (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/>)。人口、一人あたり GDP は 2015 年の統計データ。最終参照：2016 年 10 月 17 日。

治安について心配する学生も多いが、一部紛争地帯（アゼルバイジャン-アルメニア国境、南オセチアなど）を除けば、おおむね落ち着いた状況である。



図1 カザフスタンの首都・アスタナ。近代的なビルが立ち並ぶ。

### 3. 筑波大学と中央アジア・コーカサス諸国との交流

次に、筑波大学と中央アジア・コーカサス諸国との交流の軌跡について触れたい。筑波大学は、2000年代から中央アジア諸国との本格的な交流を開始した。ウズベキスタンのタシケント国立東洋学大学と2005年に学術交流協定を締結し、2007年には同大学内に本学の中央アジアにおける初の海外拠点（現：タシケントオフィス）を開設、2014年にはカザフスタンの最大都市アルマティにもオフィスを設置した。2007年に大学院の修士課程プログラムとして「中央アジア特別プログラム（現：中央ユーラシア特別プログラム）」が開始されたことに続き、「地域研究イノベーション学位プログラム(ASIP)」、「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム (Ge-NIS)」といった教育プログラムの交流先として中央アジア諸国の協定大学が組み込まれた。このように、中央アジア諸国は本学の海外展開戦略における重要拠点として関係の発展を続けている。

表3. 筑波大の中央アジア・コーカサス諸国における協定大学一覧<sup>2</sup>

国名	大学名
ウズベキスタン	タシケント国立東洋学大学、世界経済外交大学、サマルカンド国立外国語大学、ウズベキスタン世界言語大学
カザフスタン	ユーラシア国立大学、カザフ国立大学、ナルホーズ大学（新経済大学）、カザフ国際関係外国語大学、ナザルバエフ大学、カザフ国立教育大学
キルギス	キルギス国立大学、ビシュケク人文大学、キルギス民族大学
タジキスタン	ロシア・タジク・スラヴ大学、タジク国立言語大学
トルクメニスタン	アザディ世界言語大学
ジョージア	トビリシ自由大学
アゼルバイジャン	アゼルバイジャン国立言語大学、ADA大学
アルメニア	ロシア・アルメニア・スラブ大学

一方、コーカサス諸国とは、2016年に各国の有力大学と協定を締結し本格的な交流を開始したばかりである。同年3月、前述のGe-NISプログラムの海外研修によってアゼルバイジャン、ジョージアへ日本人学生3名を派遣し、10月にはコーカサス3国それぞれから、はじめての交換留学生を受け入れ

<sup>2</sup> 2016年10月現在。協定大学の詳細情報や各大学ウェブサイトへのリンクは、筑波大学国際室ウェブサイトに掲載している (<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html>)。

た。今年度はまだ日本人学生の交換留学は実現していないが、留学希望者はすでに数名おり、近い将来、日本人学生の留学も実現する見込みである。

#### 4. 中央アジア・コーカサス留学でできること

それでは、中央アジア・コーカサスへの留学で実際にどのようなことを学べるのか、またどのようなメリットがあるのか、特徴を見ていこう。

##### 4.1. 語学

メジャーな言語では、ロシア語を学ぶ環境が整っている。カザフスタン、キルギスではロシア語が公用語に指定されており、ロシア系人口の比率も高いためロシア語学習に適している。他の国も、ロシア語が学問やビジネスの言語として広く使われているため、ロシア語コースは充実している。ただしジョージアやアゼルバイジャンでは若者世代でのロシア語話者が急速に減っているため、ロシア語学習には向いていないだろう。中央アジアへのロシア語留学は、ロシアへの留学と比べて(1)物価の安さ、(2)居心地の良さを挙げる学生が多い。物価は為替レートによるところが大きいだが、2008年に「世界一物価の高い街」となったモスクワに比べると、中央アジアの方が安価に過ごせる<sup>3</sup>。キルギスの首都ビシュケクは、2016年の世界主要都市物価ランキングで209都市のうちの207位である(モスクワは同年67位)。また、カザフ人やキルギス人は日本人と顔立ちが似ており、同じアジアということで居心地の良さを感じる学生が多い。筑波大学では夏期休暇中にキルギス、春期休暇中にカザフスタンでロシア語研修を実施しているが、例年好評である。

ロシア語の他に、現地の主要言語であるウズベク語、カザフ語、キルギス語、タジク語、トルクメン語、アゼルバイジャン語、アルメニア語、ジョージア語が学べるのはもちろん、少数民族の言語(例えば、ウズベキスタンの少数民族が用いるカラカルパク語など)も学べる。

##### 4.2. 専門科目の履修

語学は海外留学の大きな目的ではあるが、専門科目を学びたい、という学生のニーズも強い。学部での交換留学の場合、いきなり現地語やロシア語での授業はハードルが高いため、多くが英語での履修を望む。

全体的には英語で専門科目の履修ができる大学は少ないが、一部、英語で多くの講義を実施している大学がある。本学の協定大学の中では、ナザルバエフ大学(カザフスタン)、ADA大学(アゼルバイジャン)が原則として全ての授業を英語で行っている。この2大学では、留学生だけでなく現地の学

<sup>3</sup> 人事コンサルティング企業マーサー社が発表する” Mercer Cost of Living Survey”に基づく。以降の物価指標も、同社のランキングに基づく。

生も英語で授業を履修する。またユーラシア国立大学、ナルホーズ大学（ともにカザフスタン）も英語での授業が充実している。カザフスタン、アゼルバイジャン両国は資源依存経済からの脱却を目指し、資源以外の分野での人材育成を貪欲に進めているため、高等教育のグローバル化や質の向上にはかなりの力が入れていることが感じられる。そのような先進的な大学では、現地学生のレベルの高さや貪欲さに日本人学生も刺激を受けるといえる。

#### 4.3. 調査・研究

大学院生を中心に、専門的な調査・研究のために中央アジア・コーカサス地域へ留学するケースがある。中央アジア・コーカサス地域は、探求すべき題材があふれるフロンティアである。政治学、人類学、言語学、考古学、歴史学、教育学などは本学の教員や大学院生が関心を寄せる分野である。この他、特徴的な自然環境や農業・畜産の長い伝統から、地質学や農学でも興味深い研究テーマが見つかるだろう。

#### 4.4. インターンシップ

筑波大学では「海外インターンシップ」科目を設置している（人文・文化学群開設）。この科目の一環として、平成27年度よりカザフスタン日本人材開発センター、キルギス日本人材開発センターでインターンシップを実施している。インターン学生はロシア語や英語、現地語を使い、日本文化発信イベントやビジネスセミナーの運営、翻訳業務等、センターの業務に従事した。



図2 キルギス日本人材開発センターでのインターンシップ。かるた文化紹介のレクチャーを企画、実施した。

#### 4.5. 短期研修

筑波大学ではこの他、学生交流やキャリア教育を主眼とした1~2週間程度の海外研修を、中央アジア・コーカサス諸国で実施している。この研修は、平成28年度より「海外プロジェクト研修」（人文・文化学群開設）として科目化されている。同研修は、中央アジア・コーカサス諸国の協定大学での学生ラウンドテーブルの開催、各国の日本大使館や企業で働く外交官や駐在員との交流などを通じて、現地の社会・経済情勢を肌で感じると共に、今後の自身のキャリア設計を考えることを目的としている。

### 5. 支援体制

続いて、奨学金を含めた学生への支援体制を紹介したい。

## 5.1. 情報提供・手続き支援

まず情報提供や手続きの支援については、留学・学生交流を支援する学内組織「グローバルコモンズ機構」が中心となり、留学の相談や手続きのサポート、安全管理の指導などを行っている。数百ある海外協定大学や、留学を前提とした教育プログラムの情報が一箇所に集約されていることで、学生への情報伝達がよりスムーズとなっている。

## 5.2. 海外オフィス

前述の通り、筑波大学はタシケント（ウズベキスタン）、アルマトイ（カザフスタン）に海外拠点を有し、それぞれ日本人コーディネーターが常駐し、留学生のサポートをしている。アルマトイから隣国キルギスの首都ビシュケクは飛行機で約1時間の距離であることから、周辺国の支援も可能な体制となっている。

## 5.3. 奨学金

経済支援については、JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）の奨学金を大いに活用させていただいている。また筑波大学独自の海外留学奨学金制度も活用している。一方で、実力のある学生に対しては、他の公募型奨学金への応募を勧めている。官民共同の海外留学支援事業「トビタテ！留学 JAPAN」には、平成28年度のカザフスタン留学者の中から1名の合格者が出ている。「トビタテ！」は倍率も高いが、厳しい選考や採用後の研修等を通じて、留学の目的が明確化されるため応募を勧めたい。こういった公募型奨学金へ応募する際は、書類作成、面接指導を教職員や先輩学生がサポートしている。

## 5.4. 安全管理

中央アジアやコーカサス地域というと、どうしても紛争のイメージがつきまとい、治安面で不安視する学生や保護者が多い。確かに、タジキスタンでは90年代に激しい内戦があり、ジョージアとロシアは2008年に戦争となり、アゼルバイジャン・アルメニアはナゴルノ＝カラバフ地域を巡って今も対立を続けている。キルギスでは2005年と2010年に2度の政権転覆があり、2度目は流血の事態となった。イスラム過激派の浸透も不安視されている。ただし実際に現地へ赴くと、街（特に首都）は平穩そのもので拍子抜けすることが多い。

それでも留学中の安全管理は重要である。本学では、民間企業の提供する海外安全危機管理サービス「OSSMA」と契約し、海外留学をする学生に対し安価で加入できるようにしている。OSSMAに加入すると、海外旅行保険ではカバーできない大小のトラブルに対するサポートを24時間365日、電話で行ってくれる。中央アジア・コーカサス地域へ留学する学生には、このOSSMAと海外旅行保険への加入を義務付けている。

## 6. 最後に

以上のように、筑波大学においては、中央アジア・コーカサス地域において交換留学をはじめ様々な教育プログラムが展開されており、支援体制も構築されていることを紹介した。ここ数年は、毎年3~5名程度の学生が交換留学生として、10~20名程度が語学研修を含む短期研修の参加者として中央アジア・コーカサス地域へ渡航している。

これまで中央アジア・コーカサス留学は、ロシアや旧ソ連地域への興味の延長として語られることが多かった。しかし独立後25年が経過し、中央アジア・コーカサス地域への興味の入り口も多様化してきていると感じる。英語で専門科目が履修できるコースの設置など、留学先としての魅力も増えつつある。東南アジアや中東、ヨーロッパ留学の「オルタナティブ」として中央アジア・コーカサス留学を検討する時代が、少しずつ近づいているのかもしれない。